



【韓国】 総合指数は週間で0.2%高と3週続伸、持ち高調整も根強い先高観

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%高と3週続伸。今週の大型連休を控えて持ち高調整の売りが重しとなり、週明けから軟調に推移したが、29日は買い戻しの動きが広がった。節目の2400ポイント台の回復には至らなかったが、プラスで週の取引を終了した。週明けから米朝間で威嚇の応酬がエスカレートし、朝鮮半島情勢が再び緊迫化したことに加え、米年内利上げ観測の高まりで新興国からの資金流出懸念がくすぶり、27日まで続落で、28日はほぼ横ばい。IT株を中心に利益確定売りが膨らみ、26日は一時2週間ぶり安値をつけた。一方、7-9月期企業決算への期待感から相場の先高観は根強く、29日は連休後の上昇を見込んだ買いが優勢だった。今週は10月3-6日が秋夕のため休場。取引日は2日のみで、手控えムードが広がるか。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.2%高と反発、今週は高値警戒感もあるが堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で1.2%高と反発。前週に0.02%安とほぼ横ばいで終えた指数は、前週末終値付近を底にしっかりと展開。原油高を支援材料に指数ウェートの高いエネルギー株を中心に買いが広がった。週前半にブレント原油価格が需給改善の観測で2015年7月以来となる60ドル手前まで上昇したことを背景に、RTS 指数は週明け25日寄り付きの1123.83ドルから26日には一時的に4月上旬以来の1144.12ドルまで上値を伸ばした。フィッチがロシア国債の格付け引き上げを示唆したことも支援材料。週中は高値警戒感から利益確定売りに押され、28日序盤には前週末比でマイナス圏に沈んだが、値ごろ感から買い戻され、29日は前日比1.0%高の1136.75ドルで週の取引を終えた。今週は高値警戒感もあるが、堅調な展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で0.3%安と6週ぶりに反落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.3%安と6週ぶりに反落。前週まで5週続伸だったことで高値警戒感が強まり、持ち高調整の売りに押された。前週に相場をけん引したファロス建設が週間で16.8%安となったことが重しとなった。指数は週前半に弱含んだが、28日にサイゴンビールが前日比4.4%高になるなど主力株の一角が上昇したことで810.35ポイントまで上値を伸ばし、4週連続で約9年7カ月ぶり高値を更新。ただ、引けにかけて値を消し、804ポイント台で終えた。29日は7-9月期のGDPが前年同期比7.5%増と7-9月期としては2011年以来の高い伸びとなったことで指数は808ポイント台まで上昇。しかし、引け際に月末を意識した持ち高整理の売りに押され、804.42ドルで週の取引を終了した。今週はもみ合い継続か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2%安、中央銀行が追加利下げの一時休止を示唆

ジャカルタ総合指数は週間で 0.2%安と 3 週ぶりに反落。9 月月間では 0.6%高。先週は週末の反発が週の下げ幅を縮めた。25 日は前週末に決定された政策金利の引き下げが買い材料にならず反落。28 日は前日にトランプ米大統領が法人減税に向けた改革案を発表したことを受けてドル高が進み、ルピアが 9 カ月ぶりの安値をつけた影響で売られた。一方、中央銀行が 2 会合連続で政策金利を引き下げたものの、今後の追加利下げに消極的な見方を示した効果で 29 日には金融株が買われ、指数は前日比 1.0%高と 5 日ぶりに反発して取引を終了した。今週は 2 日発表の 9 月の CPI に対する市場の反応が注目される。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.01%安、今週は 9 月の製造業 PMI に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.01%安と横ばい。9 月月間では 1.7%安。先週は週央の上昇が指数を支えた。25 日は 8 月の CPI 上昇率が前年同月比 0.4%と市場予想から下振れたことが嫌気されて反落。26 日は同月の鉱工業生産が前年同月比 19.1%増と予想を上回る伸びを示したが、さえない展開が続いた。27 日は前日にイエレン FRB 議長が利上げを継続する方針を示した講演内容を受け、シンガポール国内の金利が連動して上昇することへの期待感から金融株が買われて 3 日ぶりに反発。ただ、勢いは続かず、その後は 29 日まで続落した。今週は 2 日の取引終了後に 9 月の製造業 PMI が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%高、今週は 9 月の CPI に注目

SET 指数は週間で 0.9%高と反発。9 月月間では 3.5%高。先週は前週に値下がりした反動で買われ、おおむね堅調に推移した。週初の 25 日は指数ウエートの大きいタイ石油公社 (PTT) のけん引で指数は 4 営業日ぶりに反発。27 日は中央銀行が発表した政策金利が市場の予想通りに 9 会合連続で 1.50%に据え置かれ、指数は前日からほぼ横ばいだった。28 日は 4 日ぶりに反落したものの、29 日は 8 月の鉱工業生産が市場予想から上振れたことに加え、8 月の輸出額が前年同月比 16.0%増と前週に発表された通関ベースの伸び率から上振れしたことを受け、反発して週の取引を終えた。今週は 2 日発表の 9 月の CPI が焦点。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、今週は 6 日に 8 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.9%安と続落。9 月月間では 1.0%安。先週はじりじりと値を下げ、1 週間を通じて軟調な値動きが続いた。連休明けの 25 日は、外国人投資家による売りが指数下落をけん引。26 日は、北朝鮮がトランプ大統領から宣戦布告を受けたと主張し、緊張感が一層高まったことで下値を広げた。その後も買い材料に乏しく週末まで 9 営業日続落し、終値ベースで約 2 カ月半ぶりの安値を更新した。今週は 6 日に 8 月の貿易統計が発表される予定で、前年同月比の輸出の伸び率が 2 桁を維持すれば株式相場の追い風になりそうだ。前週末の為替相場でリングギ安が一服したことは好材料。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。